2018 年 1 月 20 日　第 530 号（隔月発行）

アジアの友

The Asia-no Tomo

12-1
DECEMBER-JANUARY
2017-2018

ヘン フ チョン氏を迎えて ～ドキュメンタリー映画上映会

アジア学生文化協会創立 60 周年記念
ABK 日本語教育セミナーと ABK 学館の取り組み

焼き肉忘年会＆お餅つき！

2017 年 12 月 15 日（金）、年末恒例の焼き肉忘年会が開催されました。大量に用意された美味しいお肉を心ゆくまで味わった学生たち。食後は素敵な商品が当たるビンゴ大会で盛り上がりました。続いて 12 月 22 日（金）にはこちらも恒例行事の餅つきを開催。参加した学生たちは生まれて初めての餅つきに興味津々。自らついたお餅にお気に入りのたれをつけて頬張る姿が印象的でした。

アジアの友

2017 年 12 月 - 2018 年 1 月号 第530号

目　次

2 巻 頭
新春のご挨拶　（公財）アジア学生文化協会 理事長 小木曽 友

3 アジア学生文化協会創立 60 周年記念
ヘン フ チョン氏を迎えて ～ドキュメンタリー映画上映会
（第１部）ドキュメンタリー映画『留学生 チュア スイリン』上映会
（第２部）ドイツの社会、留学生、移民のことなど

18 ご報告
「公益財団法人アジア学生文化協会創立 60 周年記念
ABK 日本語教育セミナー」と学校法人 ABK 学館の取り組み
学校法人 ABK 学館　理事・事務長　山田 健一

22 留学生の就活
企業が求める留学生　～「JOB 博 2017」で聞く

28 連載コラム
泰日工業大学 奮闘記（第 26 回）
「北の辺境の十字架」　池田 隆

31 知友会通信

32 MEMBERS

＜表紙＞ アジア文化会館恒例の餅つきイベントで
初めて餅つき体験をする留学生

新春のご挨拶

（公財）アジア学生文化協会
理事長 小木曽友

謹んで新春のご挨拶を申し上げます。

2018年の元旦は奈良・東大寺大仏殿の前で迎えました。

大晦日、午前零時の開門と同時に、正面の観想窓に大仏様（盧舎那仏・宇宙の真理をすべての人に照らし悟りに導く仏）のお顔がくっきりと現れます。この窓は、盂蘭盆の最終日、8月15日の夜と元旦の午前零時にのみ開かれ、参拝者は大仏殿の外から大仏様のお顔を拝むことができます。大晦日の夜は、午後10時頃から大篝火の焚かれた大仏殿の前に人の列ができ始め、零時には5000人を超える長い列になっていました。特にこの日は参観料が無料のためか、若いカップルや外国人が多く、あちらこちらで中国語やベトナム語が飛び交っていました。

大仏様には蝋燭をささげ、身内と関係者の健康と多幸を、そしてABK世界の一層の充実と発展、戦争のないアジアと世界の平和を祈りました。特に新しく始まった新星学寮の建て直しがつつがなく実現しますよう、心を込めて祈りました。

今年は、創立60周年を迎えたABK世界（公益財団法人アジア学生文化協会、学校法人ABK学館日本語学校、及び内外の卒業生、支援者、関連団体の皆様）が次の50年、100年を目指してさらなる充実と飛躍のジャンプ台となる年にしたいと願っています。内外の皆様の一層のご支援・ご鞭撻をお願い申し上げます。

「小さいことを一つ一つやっていくことが、とんでもない所に行きつく近道である」
（イチロー）

（公財）アジア学生文化協会60周年記念

ヘン フ チョン氏を迎えて
～ドキュメンタリー映画上映会～

2017年9月30日（土）於；アジア文化会館101研修室

（公財）アジア学生文化協会では、創立60周年記念シンポジウムのパネラーで来日したドイツ在住のヘン フ チョンさんを迎えて、およそ50年前に制作されたドキュメンタリー映画『留学生 チュア スイリン』を見る会を開催しました。会は２部構成で行われ、１部では映画の背景を中心にお話しいただきました。そして第２部では、ヘンさんが暮らすドイツの社会について、留学生事情などを幅広くお話しいただきました。

（第１部）ドキュメンタリー映画『留学生 チュア スイリン』上映会

1965年につくられた土本典昭監督の自主上映作品（白黒、16mm、51分。藤プロダクション制作。制作：工藤充、演出：土本典昭）であるドキュメンタリー映画。当時の関係者で、この映画にも登場しているヘン・フ・チョン（Heng Fu Chong）氏と田中宏氏と共に、このドキュメンタリー映画を見て、お二人からお話をうかがいました。

当時、文部省国費留学生として英国自治州のシンガポールから来日したチュア スイリン君は千葉大学留学生部に学んでいた。戦後英国の影響下におかれていたマラヤ連邦（1957年イギリスから独立）は、シンガポールとボルネオ島の一部を加え、領土を拡大しマレーシア連邦（1963年）となる。留学生たちは、このような英国の特殊権益の下では本当の独立はないとして抗議の声を上げ、デモを行いました。それに対し、新しくできたマレーシア連邦政府は、当時、在日マラヤ留学生連合会会長をしていたチュア君に帰国命令を出し、日本政府・文部省も彼の国費留学生としての身分を取り消し、千葉大学も彼を除籍にしました。帰国すれ

ば投獄されるであろうチュア君は、大学での抗議行動と復学に起ち上がりました。その姿を追った記録映画です。

当時、当財団職員になりたての田中宏さんが、ヘンさんからこの事件のことを知り、事件にかかわることとなりチュア君の支援に千葉大に通うことになります（チョア君は稲毛にある千葉大留学生寮の寮生）。ヘンさんはチュア君と同じマラヤ連邦からの留学生で、デモに参加し、大学での抗議活動の支援も行っていました。そして、お二人は共に記録映画に登場しています。

この度、ヘンさんの来日に際し、関係者からの要望もあり、50年以上の年月を経たこのドキュメント映画の上映会とお二人からの当時のお話（こぼれ話）を伺う会を開催しました。

以下、上映後、参加者とお二人の質疑応答から、映画の裏話を拾ってみました。

司会：　このドキュメンタリーのできた背景について、お伺いできますか？

支援学生たちとチュア君（右三人目）

ヘン：　この映画が出来たというのは非常に偶然でした。当時、日本に留学しているマラヤ連邦の学生で組織されたマラヤ留学生連合会は、1963年にイギリス大使館前でデモをするなど、マレーシアの独立に反対する活動を行っていたんです。当時、マラヤ本国の反対勢力は全て弾圧されて、刑務所に入れられたり、国外逃亡をしていました。そうした中、残って反対運動を続けていたのが東京とロンドンの留学生会だったんです。今から見ると、私たちはこの活動に少し誇りを持っていました。

そしてその時の留学生会会長のチュア君が、ああした形で日本の文部省から国費奨学金を打ち切られたわけです。この奨学金というのは日本政府が出した奨学金です。シンガポール政府がチュア君を奨学生に選んだわけですが、その後シンガポールはマレーシア連邦の一部になり（1965年に離脱）、そのマレーシア連邦政府が、日本政府に対してチュア君の強制送還を要求してくるわけですが、最終的な判断は日本政府がすべきことであるわけです。私もその時、チュア君と一緒に文部省の留学生課へ行きましたが、彼らはチュア君本人には事情を聴かずに、一方的に奨学金を打ち切り、千葉大学も学生の身分を停止（除籍）したわけです。日本は儒教の国であり礼儀を重んじる国で、日本人は口ではいつも「失礼、失礼」と言ってますが、その時、日本は本当に礼儀正しい国なのかと疑ってしまいました。

それで、日本は法治国家ですから、弁

田中氏（左）とヘン氏

護士に頼んで日本政府と裁判で争うことになったわけです。当時、NHKというのは割とリベラルだと思っていたのですが、そのNHKのスタッフが新聞でこの事件のことを知って、番組にして放送したいと連絡をしてきたんです。そして、いろいろ準備をして、台本まで見せてもらったのですが、結局、約束の日に彼らは来なかったんです。電話一つありませんでした。それで、この国というのは難しいなと思ったわけです。

そんな時に土本典昭さんが当時、我々留学生のたまり場だった大久保の国際学友会の食堂に現れたんです。映画監督である土本さんは日本テレビの仕事で、留学生関係の話題で何か映像を作れないかと、そこにやってきたんですね。留学生というのは日本でどういう生活をしているのか、ガールフレンドはどうやって探すのか、そういう面白い話題を考えていたようですが、たまたまそこにいた私たちにチュア君の話を聞いて、興味を持ったわけです。

私は土本さんに「あなた本当に撮るのか？」と聞きました。日本のテレビの人は信用できないと、きつい言葉で言ったわけです。土本さんは「我々は違う、我々はやると言ったら絶対にやる」と言って、この企画を進めることになったわけです。

ところが、いざこの企画をテレビ局に持っていったら、やはりダメだった。それで彼は慌てて私の所に来て、本当に申し訳ないと謝りました。私は、自分が思った通りじゃないかと彼に言ったわけですが、彼はテレビが放送しなくても、我々はやると。それで手弁当で制作することになったわけです。

その時、土本さんの知り合いで藤プロダクションの工藤充さん、今日は奥さんでやはり映画監督の羽田澄子さんがここに来ていらっしゃるのですが、工藤さんはやはりドキュメンタリーの監督さんで、そういった方々が協力してくれることになり、撮影機材などを貸してくださったわけです。当時、映画用の16mmフィルムというのは、外国から輸入していたため、非常に高かった。藤プロもそんなにお金があるわけではなかったのですが、それでもがんばってこの映画を撮ったわけです。

田中：　もう少し詳しく言うと、日本テレビ（日テレ）のノンフィクション劇場という番組があって、その企画で土本さんが撮

学生集会でマイクを握るヘン氏

影を担当することになっていたわけですね。ところが、その頃放送した「南ベトナム海兵大隊戦記」（1965年5月9日放送）という番組が、ベトナム戦争でアメリカはどういうひどいことをしているのかという内容だったために、アメリカとの間で外交問題になってしまったわけです。それで、チュア君の件をやるとまた外交問題になるからということで、日テレは降りてしまった。だけど土本さんは、一度日本政府に裏切られているチュア君を、我々がまた裏切るわけにはいかない、日テレが降りても俺はカメラを回すと言ったわけです。その時、工藤さんはCM制作をやっていたのですが、私はそちらの業界について知識がなかったので、映画制作にどれくらいお金がかかるかといったことは全くわかりませんでした。工藤さんはトライXというドイツのフィルムでないとプロは映画を撮れないんだと。土本さんが撮るのなら、そのフィルムは全部自分が出すからと言って、缶に入った輸入のフィルムを使ったのを私は覚えていますね。

このドキュメンタリー映画が出来上がった後、フジテレビがノンフィクション番組で、これに少し手を入れ、『チュア君物語』といった名前だったかで、放映したはずです。

司会：　プロデューサーの工藤充さんが穂積先生と接点があったという話を聞きましたが？

ヘン：　工藤さんから直接聞いた話です。戦争中、工藤さんが至軒寮に誰かを訪ねて行って、何日か泊まったことがあるそうです。それで穂積先生（※）を知ったそうですが、「穂積というのは若かったけど、こわい人だった」と言っていたことを覚えています。

※ アジア学生文化協会創設者。初代理事長。

（質問）　チュア スイリンさんはその後どうなったのか気になるところですが？

ヘン：　私は反政府活動をしたということで、日本に1959年に来てからほとんど国には帰れなかったんですね。ですが1965年にシンガポールがマレーシアを離脱して別の国になったことで、現地の友達がいろいろ手配をしてくれて、シンガポールには、ドイツから1、2度行ったことがあります。そこに親戚に来てもらい何十年振りの再会をしたわけですが、その時友達がチュア君にも連絡をして誘ってくれたそうです。しかし彼は忙しいということで私と会ってくれませんでした。

田中：　チュア君は千葉大に復学したわけで

関係者と打合せをする田中氏

すが、秋に処分されていますから3年生をもう一回やるわけですね。当時の国費留学生制度というのは留学生部が3年、千葉大で行われてたんですね。1年間日本語を学び、2年間教養課程に該当することを勉強し、その後いろいろな大学に進学して専攻分野を学ぶというシステムでした。ですからチュア君はもう一度千葉大に戻って、留学生部の三年目を済ませて、大阪大学の造船工学に進学したんです。そして修士課程まで行ったと思います。その後帰国して、シンガポールにジュロン造船所というかなり大きな造船所があって、そこのシニア・エンジニアをずっとやっていました。おそらく定年までそこに勤めたのではないかと思います。帰国後だと思いますが、私は一度彼の家に遊びに行った事があるんです。ただ、その後のことは全然わかりません。

ここでもう一つ裏話をすると、ご覧いただいてわかるように、ナレーションは私の一人称なんですね。一番最後、「チュア君は大学には戻れたけれど裁判はまだ続くので、当分私はチュア君から離れられない…」というナレーションで終わるわけです。土本さんからは、「映画でこう言ってるんだから、おまえ、あとはちゃんとやれよ」と言われました。あとは頼んだぞということなんですね。

その後土本さんは水俣に行って、水俣病関連の映画をたくさん撮るんです。あの人は非常に筆まめで、「おまえはちゃんと留学生の仕事をやってくれてるんだろうな？俺はいま水俣の海に潜って仕事をしているから、お互いにがんばろう」と絵はがきが来て、これがすごい達筆なんですよ。そうこうしているうちに水俣の映画というのは猛烈な反響を呼ぶようになって、土本さんって凄い人なんだなと、後でびっくりしたわけです（笑）。

もう一つ加えると、先ほどヘンさんが触れてましたが、当時は「協議離婚」と言われたのですが、シンガポールはマレーシアから分離して独立国になるわけですね。チュア君はシンガポール出身ですから、裁判が終わった時（1969年）、もはやマレーシア国民ではなくなっていたわけです。そのため日本の文部省は裁判で負けたのに控訴できなかったんですね。文部省としては「二階に上がって、梯をとられた」ような感じだと思うのですが、一審で判決が確定したわけです。

当時の文部省は国費留学生に対して日本語1年と学部4年で、トータル5年間奨学金を出していたんです。ところがチュアくんは2年半ほどで切られたわけですね。それで裁判で勝って、当初約束の5年間の奨学金の回復はできるわけですが、文部省の処分のためにもう1年、つまり卒業まで6年かかることになったわけです。1年分奨学金が足りないわけですが、あの時の弁護士はけしからんと

思ったんですが、裁判を起こす時に処分の取消しだけ請求して、止まっている奨学金の支払いについては請求していなかった。だから、裁判は勝ったけど、その間のお金が出てこないわけです。それでその6年目の分をどうするかということになって、私は文部省に行って、あなたたちの処分で1年学業が遅れるのだから、その分も支払って欲しいと請求したわけです。そうしたら、担当者は会計検査院が許可してくれない、5年しか出せないと言う。そこで、今度は会計検査院に乗り込んで、日本の政府がとった処分が誤りで、それが裁判所で証明されたわけだから、遅れた1年分を支払わなければ国際的に恥ではないかと。結局あと1年追加して出すということになったんです。その間弁護士は何もしてません。私が全部交渉したわけです。

私はこの事件に関わったことで、その後こういった行政訴訟に首を突っ込むことが続いて、ずいぶん裁判も経験しました。

司会：　その時の裁判は結局何年かかったのでしょうか？

田中：　裁判は1964年に始まってるので、約5年です。まあ当時だと普通ではないでしょうか。一審で確定しています。

その時の裁判長は松川事件国賠訴訟で有名な白石健三という方で、私に「補佐人」として裁判に参加して欲しいということを言われたんです。どういうことかというと、留学生については法律がまったくないんです。要するに、文部大臣裁定で国費外国人留学生招致要項とかいう紙が一枚あるだけなんですね。弁護士というのは法律に基づいて仕事をしていますから、どの法律のどの条文で戦うか、留学生の身分はどこで保障されているか、奨学金がどういう形で支払われているか、途中で帰国した時はどうなるか、何もわからないわけです。それで、留学生受け入れの具体的なことがわかる人に、原告補佐人として参加して欲しいということでした。私は弁護士の横に座って、弁護士と同じように発言が出来たわけです。

ちょうど、チュア君の在留期間更新の時期になって（65年4月）、それが延びるか延びないかに関して、田中だけ裁判所に来てくれないかと呼び出しがあって、白石さんの所に行ったんです。白石さんは、チュア君のビザの延長のことを凄く心配してくれていました。大学の復学が出来たとしても、それがいつになるかわからない。裁判中に在留資格がなくなって、入管から追放されたら終わりだと。

そういう裁判長は他にいないと思うのですが、「私は私立の工業大学の学長をよく知っているから、もしチュア君が希望するなら私の方で話しをしてもいいよ」と言われたんです。私は、実は今彼はこういう形で私費留学生としての入学試験を受けているという話をして、お礼を言ったのですが、そういうことは普通はないですよね。白石さんは留学生のことを大変心配してくれていた。だから凄いなあと思ったんです。たぶん弁護士はそういう所に入るとまずいから、私だけが裁判長室に呼ばれてその話をされたわけです。当時は

「給費打切りは不当」
マレーシア留学生お行政訴訟

事件を伝える当時の新聞記事

裁判官の中にも、「生身の人間を扱っている」という感覚のある人がいたんだと、しみじみ思います。どこかに書いたりしたことはない話です。

（質問） マラヤ連邦の背景について、どうして学生が反対運動をしたのか教えてください。

ヘン： 当時の世界情勢というのはベトナムで、フランスがディエン・ビエン・フーで負けて撤退して、その後アメリカがだんだんインドシナに入ってくるという時期でした。シンガポールと今のマレー半島は長年イギリス領マラヤといって、通貨も法律も同じでした。ただ、シンガポールはイギリスの直轄植民地でマレー半島の方は保護領でした。ところが1957年にイギリスが第二次中東戦争で負けて、世界各地の植民地から撤退することになります。まずガーナの独立があって、その次にシンガポールを除いたマラヤ連邦という国が出来たわけです。

ところがイギリスの植民地はそこだけではなくて、今のカリマンタン島、昔はボルネオ、にもあります。そこのブルネイに1962年反対党が作られ、その背後にはインドネシアのスカルノがいて、その地域を独立させるため反乱を起こしており、イギリスは非常に手をやいてたわけです。北ボルネオには石油や資源がたくさんあって、しかも人口はそんなに多くない。イギリスにとってはそこだけ独立されると困るわけです。シンガポールやマラヤ連邦の指導者というのはみなイギリス留学組で、イギリスさまさまですから、イギリスはマラヤ連邦にシンガポールと北ボルネオを含めマレーシア連邦を作ろうとしていたわけです。そして1963年、正式にマレーシア連邦の成立が発表されたわけです。

それを見ていた私たち学生は、イギリスがまた別の形で植民地を持とうとしているということで抗議運動を起こしたわけです。マラヤ連邦、シンガポール、北ボルネオでも反対運動が起ったのですが、ことごとく弾圧されて、残ったのが東京にあるマラヤ留学生連合会と、ロンドンのシンガポールとマラヤ連邦の学生による組織だけだったんですね。

私たちの抗議活動で東京のイギリス大使館へのデモには180人が参加しました。デモは月曜日に行われましたが、そのため大使館は閉館したんです。

なお、映画では千葉大学の学長が「学生が政治運動をやるなんて、もっての外だ」と言っていますが、私たちはちゃんと警視庁にデモの届け出を提出して許可をもらっていたわけです。極めて合法的な行動だったわけです。

（質問） 留学生達のこうした動きに対して、穂積先生はどのように考えておられたのでしょうか？

田中： 私は25歳から35歳までの10年間、アジア文化会館（ABK）の職員だったのですが、この事件に関わったのは27、28歳の時でした。当時は食堂の仕事を担当していたんですが、付きっきりの仕事ではないので、確か千葉大の留学生寮に3日くらい泊まり込んだこともありました。それで、時々ABKには帰って報告はしていましたけど、穂積先生は気持ち悪いくらい、何も言わないんですね。黙って聞いているだけです。それで一緒に支援活動をしていた人に「おまえ、職場に何日も行かなくてクビにならないか」と心配までされましたが、まったくそういうことはありませんでした。

もう一つ、文部省に色々な大学の学生部長とか関係財団の理事長とかがメンバーになっている外国人留学生問題の協議会というのがありました。穂積先生はそのメンバーだったのですが、チュア君が国費留学生の身分を打ち切られて、ビザの延長に保証人が必要になった時、穂積先生はその保証人を引き受けたんです。文部省とケンカをしている留学生の保証人になったということで、それ以降、先生は文部省の留学生関係の協議会から全て外されたわけです。私も、そういうことでは文部省からすごく睨まれていました。

だからこのチュア スイリンの問題にABKがコミットしたということで、文部省と協会の関係が長い間完全に切れていたというのはそういうことなんです。だけど穂積先生は、そのことについて全く何も言わなかった。

千葉大校内でチュア君の支援集会に集まった千葉大生たち

（質問） これからの若い人たちが、アジアの人たちと付き合って行く上で、どういう判断基準で、どうしていったらいいのかということについて、アドバイスをいただければと思います。

ヘン： 私はドイツで生活して50年近くなります。私がドイツに行った時はやはり学生運動もありましたが、排外的な社会だったんですね。その後、西ドイツと東ドイツの統合があり、EU（ヨーロッパ連合）が作られて、非常に困難があるけれど、戦争はしないなど、ヨーロッパの人々は信念を持って進んできたわけです。もちろん経済の繁栄も重要ですが、もっと大切なのは、どこの社会でも不公平を無くすということだと思っています。要するに、私がなぜ個

人的にチュア君のことを支援したかというと、同じ人間なのに、なぜこの人が差別されておかしな目に遭わないといけないのかと思ったからです。自分にはそれほど力はないけれど、彼のために力の限りやってあげたいと。それだけの話です。別にイデオロギーの問題ではないと思います。

田中：　私はABKに10年いましたが、穂積先生は、説教したり教訓を垂れたりということをしない人なんですね。聞けよ悟れよというか、穂積先生がどういうつもりで言っていたのか分からないのですが、ここに一つの希望があるなと思ったのは、先生の「日本人は自分の価値観を一回捨てなきゃダメだ」という言葉でした。その上でアジアの人たちの言うことに耳を傾けて聞きなさいと。

私がABKで働いていた時ですが、留学生でABKの近くに下宿している人もいて、例えば友達を勝手に泊めたといった理由で、時々大家さんとケンカになる学生がいました。そんな時、私は仲裁に出かけて行くんですが、短気な大家さんの中には、学生に対して「このバカ野郎」と言ってしまう人がいたわけです。すると留学生の方は、何はともあれ、「バカ野郎」と言うのは許せないと。つまり日本が侵略していた頃に、かろうじて覚えていた日本語が「バカ野郎」とか「おいコラ」で、それが日本語として伝わっているわけです。学生はその言葉を浴びせられたということで、かんかんになって怒っている。私はその時、大家さんと留学生の間に立っているのですが、留学生は田中もたぶん日本人だろうなという疑いの目で見ているわけです。その時、私がどんな言葉を発するかということが、それを決定的にするわけですね。私は大家さんに、いろいろ問題があったとしても、「バカ野郎」と言うのは絶対に許せないと、学生がかんかんになって怒っていると伝えたわけです。かつて戦争中にこういうことがあって、「バカ野郎」という言葉で、あなたが留学生を罵倒することで、新しい波紋が生まれるんだという話をしたわけですね。それで、その時はなんとなくうまくまとまったのですが、たぶん「バカ野郎」という言葉が留学生にどういう影響を与えていたのかということを、大家さんがそれなりに理解してくれたんだと思います。お互い様だから適当に仲直りしろといった、そういう態度ではたぶん事態は動かないんですね。

ABKにいると、しょっちゅうそういう揉め事を経験するんですが、やはりアジアの人から見て、所詮あいつは日本人だと思われたら終わりなんです。日本人が持っている価値観をいったん捨てて、虚心で生の肉声に耳を傾けてことを運ぶ。我々はつい偉そうに仲裁をしようとしがちなんですね。穂積先生はある雑誌のインタヴューで、「日本人を離れる」ということを言ってらっしゃるのですが、大事なのはこのことなんです。

アジアと日本との関係というのは、ものすごく根が深いと私は思っています。

ついでにもう一つ言うと、私は中国人強制連行関連でよく中国に行っているのですが、現地の人にこう言われたことがあるん

ですね。親が日本に連れて来られて殺された人なんですが、一度日本の人に聞いて見たいことが実はあるんだと。「私たち中国人が、日本に何をしたから私たちはこんな目に遭わないといけないのか」と。「日本のどこかを占領しましたか？日本のどこかに爆弾を落としましたか？そのことについて、日本の人はどう思っているのか」と。私は、考えたこともなかった発言ですね。そして、歴史認識の問題は、これなんだなと思いました。

私も小学校3年が終戦ですから、戦時中の空気は知っている世代です。だけども日本の経験した戦争というのは、ちょっと乱暴な言い方ですが、空襲で爆弾が落ちてくる、その中に原子爆弾があったわけですが、少なくとも武器を持った兵隊が日常の生活の中に入り込んできて、殺されるか、強姦されるか、火をつけられるかわからない、という恐怖の中での戦争は経験していないんです。その差はものすごく大きいと思います。それはおそらく東南アジアも朝鮮半島もみんな同じだと。なぜ日本からこんな目に遭わなきゃいけないのか。

私は、アジアの人の持つこの疑問にきちっと向き合うことに尽きると思っているんです。意外と、この大事なところが、日本側に抜け落ちているというのが私の感じるところで、私はいつもそれを肝に銘じているつもりです。

司会：　ありがとうございました。

（第2部）ドイツの社会、留学生、移民のことなど

ドキュメンタリー映画『留学生チュア スイリン』上映会後、第2部として日本留学の後50年近くドイツで暮らすヘン フチョンさんから、日本にいてはなかなかわからないドイツのこと、EUのこと、またドイツから見える日本、東アジアのこと等について、ざっくばらんにお話ししていただきました。ここでは、さまざまな話題の中から主としてドイツの留学生受入れ、教育事情等に関連した話をまとめました。

ヘン：

チュアさんのドキュメンタリー映画を見た後でもありますので、まず、ドイツに来ている留学生のことに関連して話すと、奨学金を国から貰おうが貰うまいが、大学は日本のように国費留学生と私費留学生を区別してません。また大学は、留学生だからということでドイツの学生と区別はありません。ドイツでは社会も同様で、一般的に外国人とドイツ人を区別していません。一つの例として、子供のいる家庭では子供手当がもらえますが、これはドイツ人だけでなく、合法的にドイツに暮らしている外国人の家庭でも同じ権利が与えられます。こ

うしたことは憲法の精神に則ったドイツ社会の常識なんです。

実は、ドイツは実際にはもう22%の住民が、なんらかの形で移民の背景を持っていますが、国は、移民社会だということを正式には認めていません。この数字はすでにドイツ国籍をとった人を含めています。なお現在、ドイツでは移民法を作るか作らないか、一つの政治的な争点になっています。

現在、ドイツでは、大学に登録されている留学生の数は約35万人です。この数にはドイツ語学校にいる人は含まれていません。留学生の中で一番多いのは中国からの留学生で、だいたい4万人くらいですね。そして、ロシア、インド、中近東からと続きます。中近東というのはアラブ諸国、アラブ人と言うことになりますが、いろいろな国籍の人がいますから、全体では中近東の留学生もかなり多いですね。

日本の場合、昔から大学の格付けがありますが、ドイツではそういったものがありません。昔からある一番古い大学というのはハイデルベルクにあるルプレヒト・カール大学ハイデルベルク（通称、ハイデルベルク大学）で、他にも16州の各州に古い大学はありますが、その他にも戦後できた大学、1991年の東西統合以降にできた大学もかなりあります。ただ、私立大学はほとんどありません。そうかと言ってすべて国立大学かと言うとそうではありません。ドイツは16ある連邦州からなる国ですから、各州の教育省が管轄している大学がほとんどということです。また、ドイツには大学の入学試験がありません。アビトゥーアというギムナジウム（大学進学希望者が進む中等教育。9年制）の卒業試験に合格すれば、原則としてどの大学、どの学部にも入学することが出来ます。しかし、近年には大学生の数も増加して志望者が定員を上まわる学部においては入学制限が生じています。つまり大学は、大学自身と州自身の裁量で全て動いています。留学生の受け入れも、大学と各州が決めています。

それからドイツの大学はほとんど授業料を取りません。ドイツは夏と冬の二学期制で、毎学期毎に雑費が取られますが、だいたい日本円にすると6万円を徴収しています。その中には交通費も入っています。6か月の定期がもらえます。しかも、その定期は、学校に行くだけではなく、その州全体の移動に自由に使えるものです。

ただ、最近ドイツではいろいろな議論が

あって、EUではない国の留学生からはお金を取ろうということを、ドイツ南西部の州都シュトゥットガルトのあるバーデン・ヴュルテンベルク州政府が言っています。ここは緑の党とキリスト教民主同盟が作った州政府ですが、そこが非EUからの留学生からお金をとると言い出したわけです。どのくらいの金額かというと、毎学期1,500ユーロ、だいたい20万円です。ですから1年で40万円の授業料をとることになります。これを発表したら猛反対があり、学生デモも起きました。もう一つ、ボンやデュッセルドルフがあるノルトライン・ヴェストファーレン州も授業料の有償化をおこなうようです。

昔の留学生というのは、外国に行って受け入れてもらい勉強し、やがて終わったら国へ帰ってもらうというのが一般的で、ドイツでも90年代まではそうでした。1989年にベルリンの壁が壊れるまでは、卒業したら早々に帰ってもらうという法律までありました。ですから帰りたくない人はドイツ人と結婚するといった逃げ道を作る、あるいはドイツの難民法をうまく使って、自分は宗教的にあるいは政治的被害者であることを主張して居座っていた人たちもいたわけです。

また、ドイツの大学では何学期勉強してもよかったんです。卒業は自分で決められたんですね。原則8学期（4年間）過ぎたら卒業しなければならないということは1989年まではなかったわけです。

ところが時代が変わり大学の学生が増えて、200万～300万人の高等学校を卒業したドイツ人も進学するので、今では4年間、8学期で卒業し、学士をとる、あるいは修士をとって卒業してもらうというのが原則となりました。

留学生も同様ですが、留学生の場合は卒業後18か月（1年半）という期限の中で仕事が見つかれば滞在を続けられます。そして仕事を3年続けて滞在すれば永久滞在権がもらえます。更に2年働けばドイツの国籍がとれます。それは恩恵といったものではなく法律で決められている権利としてそうなっているわけです。

私は長年ドイツで生活していますが、大学でも社会でも、法律で決められていることは権利であると言えるわけです。ですから役所に行った時も話し合い（ディスカッション）が必要です。法律にこのように書かれてあるので実行してくださいと。役所や担当者による裁量はもちろんあります。しかしこれに不満があれば、弁護士あるいは色々な民間の相談機関に持っていくことで、法律に則って対処してもらうことができるわけです。

留学生から授業料をとらないというのはマイナスな面もあります。だいたい半数の留学生が途中で大学をやめています。仕事を探して働き始める人もいます。一方で最近出された報告では、大学卒業後、留学生の4人に1人がドイツに残って仕事をしているとのことです。州は4人に1人がドイツに残って仕事をして税金を払ってくれれ

れを申請すれば他のEU圏内の大学で専攻分野の勉強ができます。そしてその国の学生と交流できるわけです。もちろんこの制度にもいろんな問題がありますが、ドイツの学生がたとえ短期間でもいいのでEUの中の1つの国の大学に行って、そこの国の人と交流して理解を深め、友達になる。そういった理念の制度です。

ば、州が4人の留学生に投資した費用が回収できると試算しています。これはドイツの商工会議所の研究所が発表したデータなんです。要するにドイツは留学生に恩恵を与えているのではなく、留学生受入れは実質的にドイツ社会の為になるんだという説明を、国民に対してしているわけです。ですから国民も納得する。もちろん、社会では最近の選挙結果にみられるように不満を持っている人もいますが、大方の人は留学生を歓迎しているわけです。

EUにはエラスムス制度（＊）と言うのがあります。EUの統合に留学制度を取り入れて考えています。EU域内の留学制度ということですが、EU各国にエラスムス制度の奨学金があります。エラスムスというのはオランダの哲学者で「ダイアローグ＝対話」という考え方を提唱した哲学者ですが、この人の名前をとった奨学金です。6か月から1年間、ドイツの大学に在学するドイツ人学生が、または留学生でもいいのですが、こ

＊エラスムス制度：EC（現在はEU）加盟国間の人物交流協力計画の一つとして1987年にエラスムス計画として始まる。

質疑：

（質問） 今、日本の学生は非常に内向きになっていて海外への留学を希望する人が少なくなっていると聞いてますが、ドイツはどうですか？

ドイツの学生もあまり外国には行きたがりません。昔は大学に何学期在学しても良かったので、50学期大学に行って、あとで自分の息子と一緒に勉強したイランの学生がいたそうです。要するに授業料がいらない、そして学生であればアルバイトもできるし、いろいろな社会制度を利用して非常に楽な生活ができました。

ところが90年代以降、特に21世紀になってくるとこれができなくなって、4年間（8学期）で卒業しないといけないという圧力

がかかるようになった。その結果、ドイツの学生はあまり外国に出たがらなくなりました。ただ、先ほどのエラスムス制度があって、外国に行って、そこで習得した単位も自分の大学で承認されますから、それは割と楽だということで、この制度を利用して海外へ行く人はいます。

それから日本人の場合ですが、短期の留学生というのはそれほど減ってないと思いますよ。学部留学は減っているかもしれませんが、それは、日本はやはり先進国で、外国の大学で勉強する必要はないということなのではないかと私は思います。

中国は、大学は多いけれど人口も多いからじゃんじゃん海外へ出て行く。例えばヨーロッパの例を見ると、フランスを除いて、イタリア、スペイン、ポルトガル、イギリスでも留学生数のトップは中国です。しかも今は裕福な人が増えてきていますから、これからドイツが一学期20万円の学費をとるといっても、そんなのはお小遣い程度だと言ってるんです。

（質問） 今のドイツで、あるいはEUの若い学生たちの雰囲気、例えば政治に対する関心などはどうでしょうか？

ドイツは、みなさんご存知のように、2015年の6月以降100万から150万人のシリアなど多国の難民を受入れました。その時、もちろん東ドイツの一部の右翼の人たちによる反対がありました。しかしドイツの社会全体で見れば、みなで協力しよう、住む場所が無ければ自分のところにしばらくいてもらって構わないという姿勢でした。政府が宿泊の場所を提供してまで難民を受入れたんです。中には難民の住居に火をつけたりという者もいたのですが、大方としては受入れようと、しかも各地で難民を守る会などを作って、物資を集めたり家具等を集めたり、あるいはドイツ語を無料で教えたりということが行われました。難民のことは政治のことになりますから、やはり若者も含めみんな政治への関心は持っています。

（質問） EUでは学生の文化交流（留学）において、言語は問題ないのでしょうか？

ドイツでは英語ですね。EUの若い人はみな英語が出来るんです。その次はドイツ語です。特に東ヨーロッパでは、ロシアまで昔はドイツ語が中学校から必須科目でしたから、ドイツ語がペラペラの人が多いです。だから言葉で困ることはないんです。

（質問） 近年、日本でも若い人はアジアの人たちが日常にいるという環境に順応してきていると思います。そうした観点からも将来は若者に期待できるのではないかと漠然と思うのですがいかがでしょうか？

私は6年前の大震災の時（2011年）、嘉悦大学で「東アジア共同体のEUの可能性」という題で話をしたことがあります。その時、日本に2か月以上滞在し東北・福島、宮城、それから岩手に行って、津波で被害を受けた

地域を友人と訪ねました。その時そこで、日本の若い人たちが熱心にボランティア活動をしていました。また、ドイツに戻るとケルンに留学していた東北出身の学生を中心に、お金などいろんなものを集めて東北の援助活動をしていたので私も参加しましたが、日本の若者は国際的な活動もしています。

また、これもいつも言うことですが、留学生の中には卒業後日本に住み着いて日本国籍を取る人も必ずいます。法務省の統計によると日本には約200万人の外国人が住んでいると言われています。この中には日本国籍をとっている人は入っていません。その人たちを入れるとだいたい300万人になります。この人たちは中国の留学生にしても、戦前の強制労働者、あるいは戦争中日本にいて不愉快な思いをした人たちとは違うわけです。これは私の考えですが、70年代、80年代に中国で文化大革命のようなことを10年間経験して、あまり学校教育を受けなかった人たちが日本にやってきた。彼らの記憶に残っているのは、日本との戦争のことよりも文化大革命のことであるわけです。それだけの理由ではありませんが、十数万の中国人がもうすでに日本国籍をとって日本人になっています。それ以外に60万、70万人の中国人が日本に永住しています。ですから、若い人の中に昔の戦争のことを出してくる人がいないわけではありませんが、大多数がそうではないわけです。一方の日本人も戦争のことはそんなに覚えていない。あまり教育されていないからかもしれませんが、わりとフリーに付き合えるような環境が出来ているのではないかと思います。ですから、これからの若い人たちの交流について、私はそれほど悲観していません。

新聞の調査では日本人の８割近くの人が中国は嫌いだと言っているそうですが、それは昔のフランス人とドイツ人も同じだったようです。あるいはドイツ人とポーランド人もそうです。互いに偏見があるということですね。しかしこれはメディアの話です。そのメディアも今は新聞だけではなくなっているわけです。FacebookやTwitterといった様々なチャンネルで目に触れることが出来ます。

ただ私は、日本の若い人には、留学でなくてもよいので、一度ヨーロッパに行って見て欲しい。そしてもう一度アジアに戻ってくるということをして欲しい。そうすると、ものを見る目も変わるのではないかと思っています。

1960年代に小田実が『何でも見てやろう』という本を書いて100万冊以上のベストセラーになりましたが、彼は団体旅行ではなく、お金がなかったけど一人海外へ出て行って世界を見て、帰国して活躍したわけですよ。その『何でも見てやろう』の続きを、漫画でもいい、アニメでもいい、誰かが作って、「外はもっと面白い」ということを伝えて欲しい。各国料理も、本家へ行って本物を食べてきてくださいと。そういうことが大切だと思いっています。

司会：　ヘンさん、ご来場のみなさま、本日はありがとうございました。

「公益財団法人アジア学生文化協会創立60周年記念ABK日本語教育セミナー」と学校法人ABK学館の取り組み

学校法人ABK学館　理事・事務長　山田健一

昨年9月30日に「公益財団法人アジア学生文化協会創立60周年記念 ABK日本語教育セミナー」と題して、学校法人ABK学館とアジア学生文化協会が共催で、日本語教師のためのセミナーを開催しました。今回、（一財）海外産業人材育成協会（AOTS）と（一社）日・タイ経済協力協会（JTECS）にはご後援を、（株）スリーエーネットワークにはご協賛をいただきました。アジア学生文化協会60年の歴史の節目に、ABK、ABK学館、AOTS、JTECS、スリーエーの5者が一堂に集まり、日本語教師のためのセミナーを共同で開催させていただいたことに、この場を借りて再度、御礼申し上げます。また、これまで、留学生問題に広く取り組んできたアジア学生文化協会と、学校法人ABK学館が協力して、協会創立60周年のテーマとして、日本語教師育成を重要課題と位置づけ、本セミナーを開催した点、大変、意義深く感じました。

セミナーでは、東京外国語大学の荒川洋平先生をお招きして、「日本語教師の学びの楽しみ・楽しみの学び」についてご講義いただきました。日本語教師の仕事の一つは、「勉強」ですが、勉強は楽しいものでなければ続かない、その楽しむ具体的なコツとまた、その成果を日々の授業や仕事にどのように活かすか、楽しく学ばせていただきました。特に、今回は、これから日本語教師を目指そうと思っている方、日本語教師経験の浅い方、そして、日本語教育に携わっているけれども悩みを抱えている方を対象とし、日本全国から100名を超す教師に参加いただきました。実際、参加した方は、日本語教育経験年数1年未満の方が2割、1年以上5年未満の方が7割でした。講義終

荒川洋平先生

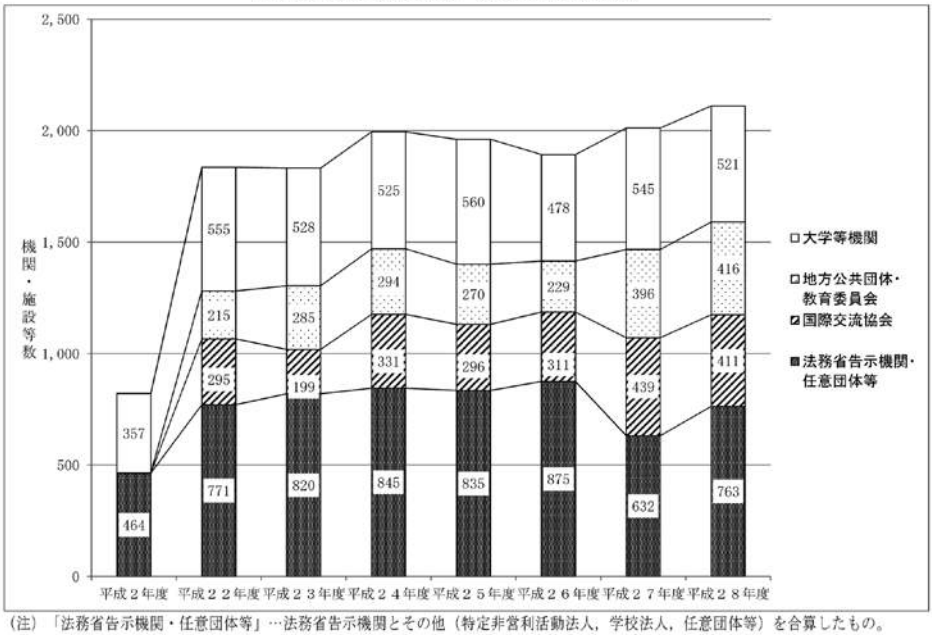
講義に聞き入る参加者のみなさん

了後の懇親会では、集まった方々同士でお互いに情報交換したり、荒川先生を囲んで大いに盛り上がりを見せていました。

アジア学生文化協会が日本語教育を開始した昭和58年（1983年）当初は、同協会の日本語学校生は49名。35年経った現在は220名、そして、同協会が2014年に開設した学校法人ABK学館には300名が在学し、2つの学校合わせて合計520名もの学生になりました。文化庁の『平成28年度国内の日本語教育の概要（平成28年11月1日現在）』によると、「平成2年度から、（平成28年度まで）日本語教育実施機関・施設等数は821から2,111（2.6倍）に、日本語教師数は8,329人から37,962人（4.6倍）に、日本語学習者数は60,601人から217,881

親睦会の様子

日本語教育実施機関・施設等数の推移



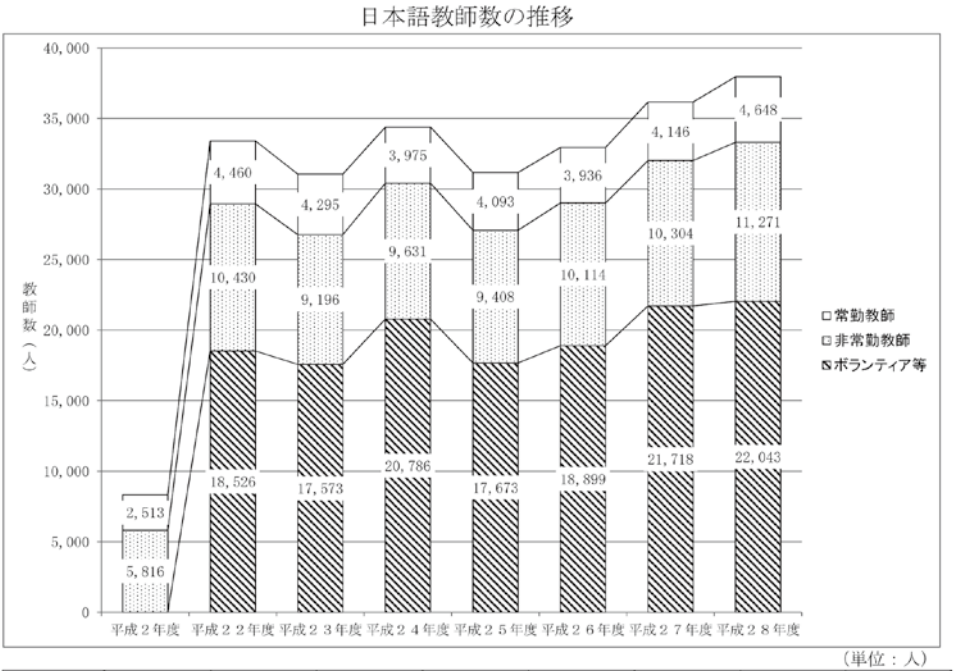
（注）「法務省告示機関・任意団体等」…法務省告示機関とその他（特定非営利活動法人，学校法人，任意団体等）を合算したもの。

（単位：機関・施設）

	平成2年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
大学等機関	357 (43.5%)	555 (30.2%)	528 (28.8%)	525 (26.3%)	560 (28.6%)	478 (25.3%)	545 (27.1%)	521 (24.7%)
地方公共団体・教育委員会	—	215 (11.7%)	285 (15.6%)	294 (14.7%)	270 (13.8%)	229 (12.1%)	396 (19.7%)	416 (19.7%)
国際交流協会	—	295 (16.1%)	199 (10.9%)	331 (16.6%)	296 (15.1%)	311 (16.4%)	439 (21.8%)	411 (19.5%)
法務省告示機関・任意団体等	464 (56.5%)	771 (42.0%)	820 (44.8%)	845 (42.4%)	835 (42.6%)	875 (46.2%)	632 (31.4%)	763 (36.1%)
合計	821 (100.0%)	1,836 (100.0%)	1,832 (100.0%)	1,995 (100.0%)	1,961 (100.0%)	1,893 (100.0%)	2,012 (100.0%)	2,111 (100.0%)

（注）地方公共団体，教育委員会及び国際交流協会の区分は平成8年度調査より設定。

文化庁資料



（単位：人）

	平成2年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
常勤教師	2,513　(30.2%)	4,460　(13.3%)	4,295　(13.8%)	3,975　(11.6%)	4,093　(13.1%)	3,936　(11.9%)	4,146　(11.5%)	4,648　(12.2%)
非常勤教師	5,816　(69.8%)	10,430　(31.2%)	9,196　(29.6%)	9,631　(28.0%)	9,408　(30.2%)	10,114　(30.7%)	10,304　(28.5%)	11,271　(29.7%)
ボランティア	—	18,526　(55.4%)	17,573　(56.6%)	20,786　(60.4%)	17,673　(56.7%)	18,899　(57.4%)	21,718　(60.0%)	22,043　(58.1%)
合計	8,329　(100.0%)	33,416　(100.0%)	31,064　(100.0%)	34,392　(100.0%)	31,174　(100.0%)	32,949　(100.0%)	36,168　(100.0%)	37,962　(100.0%)

（注）ボランティアの区分は平成６年度調査より設定。

文化庁資料

人（3.6倍）にそれぞれ増加している」となっています。日本語学習者数の増加率に比べ、日本語教師数の増加率が高いことから、日本語教師も学生数の増加とともに順調に増加しており、一見、問題がなさそうです。しかしながら、この教師数37,962人の内58.1％、22,043人の方はボランティアの教師であり、このボランティアを含めた、日本語教師の育成が現在、喫緊の課題となっています。

2018年1月13日付けの日経新聞朝刊一面では、「日本の職場　外国人頼み、シニア増えても人手補えず」、「サービス業4年で（外国人）依存度2倍」とあり、日本社会は今後、益々、外国人への依存が必要になると予測されています。その中で、日本語教育機関や日本語教育の持つ位置づけが大きく変化し、学習者だけではなく、日本語教師も質、量ともに対応すべく、育成していく必要に迫られています。

学校法人ABK学館では、9月30日に今回の同セミナーを実施した後、さらに、そのセミナーに参加した教師や残念ながら抽選で漏れて参加できなかった教師を中心に、「ABK日本語教育勉強会」を開始し、参加いただいています。

ABK日本語教育勉強会（2017年）

月 日	テーマ
11月11日	「中級、上級、文法プラスアルファ」
11月25日	「映像を使った授業－心を動かす日本語表現活動をめざして」
12月 9日	「全員参加の教室活動－ミニホワイトボードを使った授業、個人からグループ、そしてクラスを行き来する教室活動」

また、今後は以下のような勉強会を予定しています。

ABK日本語教育勉強会（2018年）

月 日	テーマ
2 月 3 日	「授業の引き出し、教科書なしで授業をするとしたら」
2 月17日	「初級から意識する技能別アプローチ」
3 月 3 日	「相談型学習会、みんなの疑問や悩みについてみんなで考えてみよう」

毎回、30名から40名ほど、当校の日本語教師が1/3、外部の日本語教師が2/3集まり、熱気に溢れています。ご興味がある方は、まだ、募集をしておりますので、どうぞ当校までお問い合わせください。
（学校法人ABK学館　ABK日本語教育勉強会担当　亀山 info@abk.ac.jp）

ABK日本語教育勉強会の様子

先ほど、紹介した文化庁の『国内の日本語教育の概況』のまえがきには、次のようにあります。
「我が国に在留する外国人の数は、平成28年末には約238万人であり、『出入国管理法及び難民認定法』が改正された平成2年末の約108万人に比べて約2倍の数となっている。この間、日本語学習者層の拡大と多様化が進み、このような状況に適切に対応した日本語教育の展開が求められるとともに、日本語教師に求められる役割や活動の場も広がっています」

アジア学生文化協会は、人間でいうと還暦に当たる60歳。暦が一巡したころで、今まで経験したことのない、新しい課題が姿を現してきました。学校法人ABK学館は、協会とともに、再度、一からこの新しいチャレンジングな課題に挑戦することになりましたが、ABKの同士とともに道を切り拓いて行きたいと考えています。

留学生の就活

企業が求める留学生　～「JOB博2017」で聞く

取材協力：（株）パソナグループ 広報室

年々高まりを見せる企業の外国人採用熱。（株）ディスコ キャリタスリサーチが2017年12月に行った「高度外国人材に関する企業調査」によると、調査対象となった全国の主要企業で回答のあった611社のうち、2018年に外国人留学生の採用を見込んでいる企業は57.8%にも上るという。留学生向けの合同企業説明会に出かけると、こうしたデータを裏付けるかのように、「初めて参加する」という企業に出会うことが多く、加えて病院や大学など、これまでこうした場では見かけることのなかった法人のブースも目に付くようになった。もはや外国人採用の波は業界を問わず広がっていると言えそうだ。

採用動機についても「優秀な人材が欲しいから」、「社内のダイバーシティ推進のため」といった理由を真っ先に上げるところが増えており、これまでのインバウンド（訪日外国人旅行）需要や海外業務への対応といった、外国語ありきの採用理由からの変化を感じる。グローバル化する現代社会において、企業が生き残っていくためには、日本人と異なる視野や価値観を持つ優秀な外国人材の存在が必要不可欠となりつつあるのかもしれない。

一方で採用の条件としてほとんどの企業が必須条件として上げるのが日本語でのコミュニケーション能力だ。これについてはビジネスレベル、もしくは入社後にそのレベルに到達できるだけの素地があることを上げる企業が多い。学歴については、就労資格（ビザ）が取得できるものであれば国内外、どこの学校を卒業していても構わないという企業がほとんどで、母国や海外の大学を卒業後、来日して日本語学校で学んでいるという学生も説明会場には数多く来場している。入社後に日本語研修等を行っている企業は少なく、学生時代にいかに高度な日本語力を身に付けられるかが、就活成功の最低必須条件と言えるだろう。

昨年も8月と11月の2回、（株）パソナグループが主催する外国人向け合同企業説明会「JOB博（東京）」にお邪魔し、企業の担当者からお話をうかがうことができた。ここでそのいくつかをご紹介したい。

国際航業株式会社

衛星や航空機を利用した、空間情報事業（空間情報技術サービス、建設コンサルタントサービス）を中心に、まちづくり、防災、環境保全、GIS z（Geographic Information System）による次世代のインフラ管理など、幅広い事業を世界規模で展開している。本社は東京。

＜留学生採用の理由は？＞

弊社では以前より海外の ODA に関わる仕事を行っており、外国籍社員の新卒採用で毎年 3 名ほどずつ採用を行ってきました。しかし、最近は各企業の新卒採用が活発化してきており、これまでの採用活動だけでは優秀な人材の確保が難しく、さらに広く募集を行うため、今回初めて新卒留学生対象のジョブフェアに参加しました。

＜募集対象は？＞

技術の会社で、社員の 7 割は技術職ですから、採用の主体となるのは理工系の方となりますが、国内で数年経験を積んだ上で海外営業をしたいという方であれば文系の方も採用したいと考えています。学歴ですが、新卒採用の場合、原則は大卒以上で、日本の大学出身でなくても構いません。

＜語学力は？＞

弊社の場合、取引先は官公庁が多く、ある程度の日本語力が必要なため日本語能力試験の N1 レベルを希望していますが、必須ということではなく面接で判断させていただきます。 将来的には日本語が出来ない方でも採用していく方向です。英語や他の言語に関しても、できるに越したことはないのですが、重要なのはコミュニケ ーション能力だと考えております。外国語が出来る方には海外の仕事をやっていただきます。

＜国籍や母語は？＞

弊社で事業を行っている ASEAN の方にもっと来ていただきたいと思っています。

マップマーケティング株式会社

エリアマーケティング用 GIS「Terra Map シリーズ」を開発、販売。本社は東京。

＜留学生採用の理由は？＞

相対的な話になってしまいますが、留学生の方はしっかり自分の意思を主張されたり、目的を持って勉強されている方が多いので、一般的に日本人学生に比べて優秀な方が多いと感じています。今回は初の留学生募集ですが、きっかけとなったのは、昨年ペルーに進出しまして、今後はタイを中心に ASEAN 各国にも進出したいという計画があるからです。また、社内的にも外国籍社員が入ることでダイバーシティ推進が計られるのではないかと思っています。

＜募集対象は？＞

当社はソフトウェアの開発販売をしていますので、職種でいいますとプログラマーの方を募集しています。大卒以上の理系の方でプログラミングについて少しでも勉強された方です。国籍などは特に問いません。

＜語学力は？＞

日本語の日常会話ができれば良しということで、能力試験の結果ではなく、実際お話ししてみて判断したいと思っています。

ボッシュ株式会社

ディーゼルおよびガソリン用燃料噴射装置、自動車用制動装置等の開発、製造、販売および自動車機器アフターマーケット製品、自動車整備機器、電動工具、などの輸入販売。本社は東京。

＜留学生採用の理由は？＞

彼らの英語力が大きいです。今回募集をしている横浜事業所は弊社の開発拠点となっていますが、1,200人の社員のうち15％が外国籍の社員になりますので、社内での英語のコミュニケーションは必須になります。ですから、留学生だけではなく、日本の学生にも一定以上の英語レベルというのは求めています。実際の能力については試験のスコアではなく、面接で判断しています。

＜募集対象は？＞

外資系企業ですがお客様は日本の方になりますから、例えばエンジニアとして日本のお客様と仕事がしたいという方で、大卒以上の方です。ボッシュジャパン全体としては幅広い職種で募集していますが、今回は開発拠点となっている横浜事業所での仕事ということで、理系の方をメインに募集しています。もちろん文系の方は受け付けないということではありません。

＜日本語力は？＞

日本語はN2以上の実力がある方を求めています。エンジニアではあるのですが、お客様のところに出向いて、どういう製品が欲しいのか、どんな技術が欲しいのかというヒアリングが必要になりますので、一定以上の日本語力は必要です。

＜採用実績と採用活動は？＞

私たちの留学生採用歴は非常に長いです。ただし、最近は日系企業さんが留学生を積極的に採用するようになり、外資よりも日系企業を選ぶ留学生の方が増えてきているようです。もともと弊社は外資系企業ということで留学生の方が飛び込みやすい環境だったのですが、日系企業がそういったところにも力を入れてきていますので、他社との競争は激しくなってきていると感じています。

＜御社の魅力は？＞

いろいろな企業がグローバル化、ダイバーシティと言っていますが、ボッシュに関しては元々壁やボーダーがないように思います。様々な国籍の社員が働いているのが当たり前ですし、働き方、時間の感覚というのもその人それぞれですから、その中でどうやってベストのチームを作るか、ということに会社として力を入れているように思います。

APAMAN株式会社

不動産賃貸仲介の大手フランチャイズブランドであるAPAMANグループを管理・運営。本社は東京。

＜留学生採用の理由は？＞

留学生には様々な文化、様々な個性を持った優秀な方々が多いと考えており、そういったみなさんと一緒に働きたいと考えています。業務にはもちろん店舗での外国人対応もありますが、それに限らず様々な部署で働いていただく予定です。

＜募集対象は？＞

国籍関係なく優秀な人がいれば採用したいと考えています。学歴は大卒以上で、出身大学の国・地域は問いません。

＜語学力は？＞

業務では日本語が必須なので、それなりの実力は必要です。入社する時点でビジネス日本語が完璧である必要はありませんが、入社してから徐々に身に付けて行けるような素地は必要となります。資格については特にN1がないと入れないという条件は設けていません。英語については部署によって必要になるケースもありますから、できたらなお良しという程度に考えています。

＜採用実績・予定は？＞

現在の外国籍社員は10人ほどです。今年の採用は１－２名ですが、良い人がいましたらその限りではありません。

森永牛乳配給株式会社

和菓子（団子・まんじゅう）の製造卸。台湾・香港・中国・インドネシア・アメリカ・フランスに和菓子を輸出。現地企業と和菓子の共同開発・製造販売も進めている。本社は茨城。

＜留学生採用の理由は？＞

海外の食品展示会に出展して商品を知ってもらい、気に入ってもらえれば輸出していくというやり方が徐々に広がってきています。そのため今後は日本からの輸出だけでは賄いきれなくなることが予想され、留学

生の方の力を借りたいということです。業務内容として、販促をしていただくのはもちろんですが、日本の和菓子を母国で広めて行ってもらいたいというのが一つ。もう一つは海外の文化を日本の和菓子にとり入れていきたいという思いもあります。私たちには固定観念のようなものがあるので、そこを打破して、現地の文化、生活習慣などから出来上がったスイーツと日本の和菓子とを融合していきたいと思っています。

＜募集対象は？＞

国籍などは問いません。学歴については就労ビザがとれる方であれば卒業された国も問いません。私たちの商品を気に入ってくれて、それを一緒に広めていきたいと思ってくれる方であれば歓迎します。

＜語学力は？＞

日本の素材や材料といったものを理解し、それを母国語で表現できるレベルの日本語力を持っていることが理想です。資格の有無にはこだわりません。また、言葉がわからない時はジェスチャーを交えてでも、どんどんやっていけるようなコミュニケーション力を求めます。英語力は私たちが海外に行った時に通

＊ここでご紹介している企業が現在も採用活動を行っているとは限りません。

訳として活躍していただきたいので、ある程度の能力は求めます。

＜採用実績は？＞

昨年初めてインドネシアの方を2名採用して、一人は今現地に行ってもらっています。

＜留学生が御社に興味を持つ理由は？＞

和菓子に興味を持ってくれたことや、海外営業、出張ということに興味があるようです。純粋に日本文化が好きで、日本で働きたいという方もいます。みなさんスキルを非常に持っていて、私たちに無いものをたくさん持っていると感じました。

大手電動工具メーカー

電動工具・ライフサイエンス機器のグローバル企業。本社は東京

＜留学生採用の理由は？＞

昨今ダイバーシティとよく言われていますが、弊社はこれまで99%の社員が日本人でした。そこで少し母集団を広げる意味合いで、様々な国から来られている留学生で優秀な方がいればとイメージをさせていただきました。ですから、留学生を対象に募集活動を行うのは今回が初めてです。

＜募集対象は？＞

大卒以上の方で文系、理系の方ともに募集をしています。国籍については厳密ではありませんが、ASEANでのビジネスが多いのでその地域の方々を希望しています。弊社が進出している国ということですと、マレーシア、シンガポール、タイ、インド、ベトナム等になります。

＜語学力は？＞

日本語力は日本採用でチームのベースが当面は日本になりますから、ビジネスである程度意思疎通ができるレベルが必要です。日本語力については面接や説明会での会話を通じて判断をします。英語力はあるに越したことはないですが、必須ではありません。

＜採用予定は？＞

日本人を含めた全体枠で言えば30名ほどで、うち留学生については限定していません。

＜留学生を迎え入れる為の準備は？＞

特別なことは行っていません。おそらく入社後の配属先もあまり上手な使い方がわからないというのが実態だと思います。だからといってこのまま外国籍社員をとらなくてもいいのかという疑問があります。少し力技ではありますが、継続的に外国籍社員を配置していくことで、社内がグローバル化していくことを期待しているといった感じです。

大手メガネチェーン

国内のみならずアジア各国にてチェーン展開を行っている。本社は東京。

＜募集職種は？＞

店頭に立っての接客や視力測定、メガネの加工調整といった業務になります。ただしこれは入口の業務で、ゆくゆくのキャリアアップとしてマネージメント分野、店長になれるような素質を持っている人を探しています。

＜留学生採用の理由は？＞

採用のきっかけは国内のインバウンド対策で5年程前です。日本語だけではなくて英語と

中国語で対応可能な人に入社してもらいたいと思い、外国人採用を始めました。その後、その時入社された方々のチャレンジ精神、出世意欲や積極性といったところが社内で評価されて、インバウンド対策の為だけの採用ではもったいないということで、3年ほど前から本格的に留学生、外国人採用に力を入れるようになりました。

＜募集対象は？＞

文系、理系は問いませんが営業職ですと文系の方のほうが就労ビザはとりやすいです。理系の方で専門技術をお持ちの方はIT職として採用しています。

＜採用活動で難しいのは？＞

小売業のため、そこまでの熱意を持って応募してくる方はあまり多くないという点です。その気持ちはわかりますが、入口ではどうしても現場経験が必要になりますから、商品に関する専門知識も学習していただかないといけない。そういったことは接客を通じてスキルアップされていきますので、現場の経験は必要です。そこを理解してくれない学生さんもおり、難しいところと感じています。

＜留学生を惹き付ける採用活動は？＞

入社後の明確なキャリアアップを見せることではないかなと思います。母数を集めるにはこういったイベントに数多く出展することですが、ブースに来てくれた方に、いかに応募の意志を固めていただけるかということになると、明確なキャリアップの道を示し、理想像はこうだということをしっかり説明することだと思っています。将来こんな立場に立ってこんな仕事ができるんだというイメージを持ってもらうことで、選考に進んでいただけるようになるのではないかと考えています。

外資系ホテルチェーン

世界10か国以上で展開する高級ホテルチェーン。

＜募集対象は？＞

文型、理系はこだわっていませんが、日本語英語が話せるということが大前提で、さらに接客に向いた性格の方ということになります。就労ビザが取れる資格の方であれば日本での学歴は問いません。

＜採用実績・予定は？＞

18の国籍の従業員が働いている会社で、新卒外国人の受入れは毎年のように行っています。採用予定は2017年4月で30人ほどです。10％以上が外国人従業員なので、社内に日本人、外国人の壁はありません。

＜語学力は？＞

日本語力はビジネスレベルを求めます。能力試験等の資格は問わず面接で判断していますが、N2以下のレベルでは難しいと思います。

JOB博SPRING（外国人のための合同企業説明・選考会）
● 東京（3/16・JOB HUB SQUARE）　● 大阪（4/14・パソナグループビル）
● 名古屋（4/21・ミッドランドホール）　● 福岡（4/9・エルガーラホール）
［URL］ https://job-haku.com

バンコクの泰日工業大学で活躍するスタッフ＆先生によるリレーエッセイ

泰日工業大学（TNI）奮闘記

㉖ 北の辺境の十字架

池田 隆

TNIの学生はタイ全土から集まっている。数の上から言うと、圧倒的にバンコク周辺が多いが、クラスの数人は、かなり遠くの県の出身者がいて驚かされる。

ピヤポーン・ピンタキヤオさん（経営学部国際ビジネス学科3年生）も、そんな一人である。彼女の出身はチェンライ県である。チェンライ県はタイ最北の県で、ラオス、ミャンマーと国境を接している。

この地域は山岳地帯のため、かつては、中央の統治が及びにくい地域であった。そのため、反政府勢力が国境をまたいで割拠し、資金源として麻薬の生産を盛んに行っていたという歴史がある。現在でも、ミャンマーやラオスから、麻薬の密輸が行われており、警察による摘発のニュースがよく報じられている。

お祖父さんの教会

チェンライ県には他にも特徴がある。チェンライの町を歩くと、あちこちに教会があることに気付く。チェンライはキリスト教の教会が多く、インターネットで検索すると、各県には、10～30程度の教会しかないが、チェンライ県には734もの教会がある。教会が多い県は、チェンマイ県973、メーホンソン県446となっており、チェンライを含めた北部3県は他の県に比べて突出している。ちなみにバンコクは402である。県庁所在地に限って言えば、チェンライ市180、チェンマイ市96であり、それが、チェンライの町の印象を他の町とは異なるものにしている。かつて西洋人宣教師が布教活動を行うために、タイを訪れたが、タイは仏教国のため、タイ最北のこの地域が、唯一、布教活動で一定数の信者を獲得することが出来た地域である。

ピヤポーンさんの一族もキリスト教徒である。彼女のお祖父さんは、数十年前、友人4人と共に資金を出し合い、市内に教会を建設しており、現在でも、その教会は周辺住民の心の拠り所となっている。

彼女の一族も教会を支えている。親戚は教会への寄付と寄付金集めを行っている。彼女のお母さんは教会の幼稚園の先生をしている。彼女のお兄さんは現在はバンコクで働いているが、地元の大学で学んでいた

お父さん

お父さんの教会

時は、教会のオルガン奏者として儀式の際には必ず参加していた。

そして、彼女のお父さんは、牧師である。しかし、彼女のお父さんの教会はお祖父さんの教会ではなく、別の場所にある。市内から車で1時間半程の、山岳民族が住んでいる山の上にある。毎週日曜日に市内にある自宅から通っている。

実は、お父さんの本当の仕事は、農業省の職員である。チェンライ県のあらゆる場所に赴いて、農民にお茶の栽培方法を指導している。山岳民族の村も指導している。その中で、山岳民族の生活の実情を知り、危機感を抱いた。

山岳民族は、ラオスやミャンマーから避難して来た人達が多い。原因は、ラオスやミャンマーの麻薬問題である。彼等の出身地の村では、農作業をするときに麻薬を使う人がいたり、葬式の弔問客にも麻薬を出す習慣がある。その為、麻薬中毒になる者がおり、危険だからである。

しかし、彼等がタイに避難してきても問題が解決できるわけではない。タイの国籍もなく、お金もないため、山の上の、無人の地域に不法に住み着いて、農業をして生活している。収入が少なく、生活は苦しい。そのため、手っ取り早く現金収入になる麻薬の密売に手を出す者も少なくない。村の子供たちの中には、親が麻薬がらみで逮捕され、刑務所に入っているという家庭の子供たちもいる。

貧困や犯罪などが子供たちに与える影響は大きい。子供たちは最初は素直で可愛い性格でも、心が荒み、非行、犯罪へと向かって行く。子供たちは犠牲者なのである。ピヤポーンさんのお父さんは、そんな子供たちの境遇に胸を痛めた。

「子供たちを救う道、それは教育である。」ピヤポーンさんのお父さんは、そう考えて、長年、山岳民族の子供たちに聖書に関連した基礎的な教育活動を行っている。子供たちは4歳～14歳で、150人程が参加している。中には小学校にも通っていなかったり、国籍が無かったり、タイ語が話せなかったりと、色々な問題を抱えた子供たちがいる。活動内容は、本の読み聞かせ、お絵かき、ゲーム等で、道徳観や倫理観を養っている。

ピヤポーンさんもチェンライに帰った時

（左上）ピヤポーンさんの家族（お祖父さんの教会で）
（右上）子供たちに教えるピヤポーンさん
（右下）山岳民族の子供たち

は、一緒に教えている。筆者が、「たまに家に帰った時ぐらい家でゆっくり休めば？」と聞くと、「子供たちは本当に可愛いです。それに、子供たちに教えることは本当に幸せです。」と言う。子供たちに教えている写真を見ると、日ごろの学生としてのピヤポーンさんではない、「ピヤポーン先生」として頑張っている別の顔に出会えて、少し感動した。

彼女ももちろん山岳民族が抱える問題に直面している。かつて、弟のように可愛がっていた男の子がいた。彼女がバンコクから戻ると、その男の子はもう教会に来なくなっていた。彼は中学を辞めて仕事を始めたものの長く続かず、非行グループに加わり、逮捕されたという。ピヤポーンさんは小さい頃から知っているだけに非常に大きなショックを受けた。

しかし、彼女は諦めない。「弱い者を助けなければならない。受けるよりは与える方が、幸いである。」これは、彼女の一番好きな聖書の言葉である。彼女はこの言葉を信じている。これを実践することが使命であり、喜びでもある。そう信じている。

タイ最北の県、チェンライ県。この辺境にある小さな村の教会の十字架は、山岳民族の住民に希望を与えるかけがえのない存在である。

池田隆（いけだたかし）：泰日工業大学（TNI）教養学部日本語講師。2003年青年海外協力隊員として、タイ国ウボンラチャタニ大学に赴任。その後、タイ南部タクシン大学を経て、現職。

知友会通信
CHIYU KAI TSUSHIN

奨学金情報

※ 奨学金情報は Japan Study Support のホームページよりご覧いただけます（http://www.jpss.jp/ja/）

■ 富士ゼロックス（株）小林節太郎記念基金 在日外国人留学生研究助成

●**助成対象分野：**　人文・社会科学（個人研究に限る）。日本やアジア・大洋州の社会、文化などへの理解・認識を深め、将来これにより日本とこれらの地域との国際交流が一層促進されるような研究を重視。

●**応募条件：**（1）2018 年 2 月 28 日現在および助成金受給の時点で、次のすべての条件を満たしていること。①アジア、大洋州諸国・地域（※）から来日中の留学生　②日本国内の大学院博士課程（前期博士課程など修士課程相当を除く）在籍者、または大学院博士課程を修了し、博士号取得のために継続して在籍している者。ただし、博士号を既に取得している者、あるいは助成金授与時（2018 年 7 月末）までに博士号取得が決定（内定）している者は応募できません。　③指導教員の推薦を受けられる者。

※ ここで言うアジア・大洋州諸国・地域とは、次の国・地域を示します。

韓国、中国、台湾、モンゴル、インドネシア、カンボジア、シンガポール、タイ、東ティモール、フィリピン、ブルネイ、ベトナム、マレーシア、ミャンマー、ラオス、インド、スリランカ、ネパール、パキスタン、バングラデシュ、ブータン、モルディブ、オーストラリア、ニュージーランド、オセアニア地域の島国

●**助成期間：**原則として 1 年間

●**助成金額：**1 件当たり 120 万円を限度に支給

●**募集人数：**30 名程度

●**応募方法：**実施団体に直接申込む

●**応募締切：**2018 年 2 月 28 日（水）（当日消印有効）

●**実施団体：**富士ゼロックス株式会社 小林基金事務局

（ホームページ）
http://www.fujixerox.co.jp/company/social/next/foundation/prog.html

イベント情報

■ 第13回 MIFA 国際交流フェスティバル　＜発見！体験！世界を冒険！＞

＜日時＞　2018 年 2 月 11 日（日）　10:00 ～ 16:00（入場無料）

＜場所＞　めぐろパーシモンホール＆めぐろ区民キャンパス公園（東急東横線「都立大学」駅より徒歩 7 分）

＜内容＞　各国大使館等の料理物産展示販売、世界各国の音楽・歌・舞踊、日本文化体験（活け花／囲碁／茶道／習字／きもの着付け）、国際協力／交流団体出展 ほか

＜主催・問合せ先＞　公益財団法人 目黒区国際交流協会（MIFA）

TEL: 03-3715-4671　　FAX: 03-3715-4672　E-MAIL：info@mifa.jp

■ 外国人留学生向け就職フェア

＜日程＞

（東　京）3月 10 日（土）、11 日（日）　東京流通センター

（大　阪）3月 17 日（土）　グランキューブ大阪

（名古屋）3月 18 日（日）　ウインクあいち

＜参加予約＞ https://www.globalleadernavi.com

＜問合せ先＞ グローバルリーダー運営事務局　TEL: 03-6264-9641

＜主催＞ 株式会社ベイングローバル

MEMBERS

〈会費とご寄附の報告〉

2017 年 10 月

特別会員

（5口）

（株）スリーエーネットワーク　千代田区

正会員

（1口）

寺尾 方孝／三枝子　国分寺市

有朋堂鍼灸院　仙台市

HENG FU CHONG　ドイツ

小野里 光博　文京区

佐藤 郁夫　仙台市

奥山 節子　西村山郡

平峯 克　川崎市

清水 恭子　練馬区

佐藤 和江　日野市

ご寄附

中西 鶴子　名古屋市

外山 攻　八王子市

酒井 杏郎　渋谷区

宮崎 悦子　金沢市

2017 年 11 月

正会員

（1口）

木下 幹康／澄江　狛江市

早乙女 和義／博子　品川区

ご寄附

山崎 光郎　横浜市

いつも変わらぬ
皆様の暖かい御支援に
感謝申上げます

ご入会とご寄付のお願い

当協会は、政府の補助金を受けていない純民間運営の公益法人ですので、財源に限りがあり、皆様方からお送りいただく会費、寄付金は、本協会の活動を支える貴重な財源となっています。何卒ご理解、ご協力をお願い致します。

協会のあらまし

名　称：公益財団法人アジア学生文化協会
ASIAN STUDENTS CULTURAL ASSOSIATION
（ASCA）

所在地：東京都文京区本駒込2丁目12番地13号

代表者：理事長　小木曽　友

設　立：1957年（昭和32年）9月18日
故穂積五一氏創設

目　的：日本とアジア諸国の青年学生が共同生活を通じて、人間的和合と学術、文化および経済の交流をはかることにより、アジアの親善と世界の平和に貢献することを目的とする。

◇主な事業◇

（1）留学生宿舎の運営
（2）留学生日本語コースの運営（進学希望者向けの日本語を中心とする教育）
（3）留学生に対する情報提供支援
（4）アジア語学セミナー
（5）帰国留学生のアジア文化会館同窓会、（社）日・タイ経済協力協会、ＡＢＫ留学生友の会との連携・協力

◇会費（年額）◇

正会員　　1口　1万円
賛助会員　1口　5万円
特別会員　1口　10万円

会員には広報誌「アジアの友」が無料配布されます。また、広報誌購入だけを希望される方には、購読料年間３千円（十税）でお送りしています。

当財団に対する寄附金は、所得税、一部自治体の個人住民税、相続税、及び法人税の税制上の優遇措置があります。

2015年度より購読料に別途消費税をご負担いただくことになりました。何卒ご了承下さい。

新星学寮取り壊し・建替えのお知らせ

アジア文化会館の母体となり、多くの日本人学生、留学生の生活と学びの場であった新星学寮（文京区本郷）は木造建物の老朽化とそれに伴う耐震化の必要性に迫られていましたが、この度寮友有志の議論を経て、ようやく取り壊し並びに建替えが決まりました。2017年11末から12月にかけての取り壊し、2018 年 1 月から6月にかけて建替え工事を行う予定です。

これに伴いまして、只今建替えのための募金を募っております。詳細については下記ホームページをご覧ください。

http://www.abk.or.jp/donation/index.html

後 記

昨年60周年を迎えた当財団の発足当時は、日本に学びに来る留学生の母国はまだ植民地からの独立後間もないアジア、アフリカ、ラテンアメリカの国々が多く、来日する留学生は自国の発展を願って国を背負って学びに来る意欲に燃えた学生が多かった。本誌で取り上げたドキュメンタリー映画『留学生チュア スイリン』でご紹介の事件も、そうした時代を背負ったもので、その後もしばらくはさまざま国からの留学生の身の上に、国情を背負った留学生の問題が続いていった。

アジア文化会館（ABK）の母体である文京区本郷にある新星学寮は、老朽化し2011年の大震災を受け、2014年から寮友有志による検討が続けられ、昨年ようやく建替えの運びとなった。暮れには旧学寮及び隣接の穂積家の建物の取り壊しを終え、更地になった土地で地鎮祭が行われた（12月25日）。この１月からすでに新寮の土台の工事が始まり、６月中には完成予定だ。現在建設の一部に充てる募金を行っている。（F）

アジアの友　2017 年 12 月号 - 2018 年 1 月号

2018 年 1 月 20 日発行（通刊第530号）
年間購読（送料共）3,000円＋税　1部　500円＋税

発 行 人　小 木 曽　友
編　　集　アジアの友編集部
発 行 所　公益財団法人　アジア学生文化協会
東京都文京区本駒込2 ― 12 ― 13（〒113-8642）
電話番号 ： 03 - 3946 - 4121　ファクシミリ： 03 - 3946 - 7599
振替口座 ： 00150 - 0 - 56754　E-mail：tomo@abk.or.jp
ホームページ：（http://www.abk.or.jp/）

published by ASIAN STUDENTS CULTURAL ASSOCIATION
(ASIA BUNKA KAIKAN)
2-12-13, Honkomagome, Bunkyo-ku, Tokyo, 113-8642, JAPAN
☎+81-3-3946-4121 FAX+81-3-3946-7599
Email : tomo@abk.or.jp
Home Page : http://www.abk.or.jp/

会員並びにご購読のお申込みはメール・電話または巻末の振替用紙にてお願いいたします。

学校法人 ABK 学館

ABK学館日本語学校

所 在 地　〒113-0021 東京都文京区本駒込 2-12-12
電話番号　+81-3-6912-0756　　FAX　+81-3-6912-0757
U R L　http://abk.ac.jp　　E-mail　info@abk.ac.jp

- 留学生の絆が作る日本語学校 -

ABK学館日本語学校（英語名称：ABK COLLGE）は1957年に設立された公益財団法人アジア学生文化協会で寮生活や日本語を学習した留学生、そして多くの関係者のご寄付と献身的な協力により、学校法人による日本語学校として2014年４月に開校しました。当校には姉妹校のABK日本語コース（公益財団法人アジア学生文化協会）もあり各種協力を行います。

授業風景イメージ

寮の一例

ABK日本語コース　　ABK COLLEGE

ABK COLLEGE（学校法人ABK学館ABK学館日本語学校）
東京都認可日本語課程（大学院・専門学校・就職・文化体験等）

	４月入学 １年コース	10月入学 １年半コース	４月入学 ２年コース
授業時間	860時間	1,290時間	1,720時間
入学検定料	20,000円		
入学金	80,000円		
授業料（施設・教材費含む）	620,000円	930,000円	1,240,000円

姉妹校 ABK日本語コース（公益財団法人アジア学生文化協会）
文部科学省指定大学進学準備教育課程

	４月入学１年コース	10月入学1.5年コース
授業時間	1,086 時間	1,586 時間
入学検定料	20,000円	
入学金	80,000円（大学進学日本語課程） 95,000円（大学進学準備課程）	
授業料（施設・教材費含む）	720,000円	1,080,000円

所在地：〒113-8642東京都文京区本駒込2-12-13　U R L（:http://abk.or.jp
電　話：+81-3-3946-2171 FAX：+81-3946-7559　E-mail（:nihongo@abk.or.jp

東京の中心部にありながら、緑が多く静かな環境